

初任日本語教師のための教案作成指導における課題調査

Survey on Issues of Instructions to Newly Appointed Japanese Language Teachers for Class Planning

立和名 房子*1*2 平岡 斉士*3 久保田 真一郎*3 合田 美子*3

Fusako TACHIWANA Naoshi HIRAOKA Shin-Ichiro KUBOTA Yoshiko GODA

大阪 YMCA 国際専門学校*1、熊本大学大学院教授システム学専攻*2

熊本大学教授システム学研究センター*3

Osaka YMCA International College *1 Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University*2

Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University *3

<あらまし>

日本語教育機関で教える初任教师とその初任教师を指導する教師の間で行われている教案指導に関する課題を抽出するために、インタビュー調査を行った。その結果、指導内容に関する知識や授業スキルについてだけでなく、初任教师が授業の設計方法や到達目標の立て方、練習の組み立て方などに難しさを感じていることが分かった。

<キーワード> 日本語教育 初任教师 教案指導 チェックリスト インストラクショナルデザイン

1. はじめに

1.1. 背景

文化庁文化審議会国語分科会の報告によると、国内における日本語学習者、日本語教育機関の数はいずれも年々増加しており、日本語教育人材の資質・能力の向上が課題となっている。(2018「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)」)日本語教育機関(以下、日本語学校)においては、教師不足が深刻な問題となっている中、初任者の占める割合が増え、それにとまって初任者への指導にかかる負担や、授業の質の維持・向上が課題となっている。また、授業準備の負担や授業での失敗などから自信をなくし、学期途中で離職する初任者もいる。

着任後の初任者への研修やサポートについては、各校に委ねられており、その内容や方法も様々だが、一般的に行われていることの一つに授業計画書(以下、教案)作成の指導がある。この指導においては、初任者が自分の担当する授業の教案を初任者の指導を担当する教員(以下、指導教員)に提出し、指導教員がそれにコメントをつけて返す、一対一の対面で改善点について指摘するなどが行われている。しかし、教案作成に時間がかかり、提出が授業前日になる、修正箇所が多く、指導に時間がかかるなどの問題がある。

1.2. 教案指導

筆者の勤務校では、日本国内の日本語学校での指導経験年数が2年未満の者を対象に半年間の教案指導を行っている。原則的に、初任者が担当する授

業すべての教案を指導教員に授業の1週間前までに提出することになっているが、初任者の経験年数や状況に応じて適宜変更される場合もある。通常、授業は一日4コマで、1コマ50分である。日本語学校においては、1週間の授業を数名の教師で担当するいわゆるチームティーチングが一般的に行われており、文法や語彙の授業に当たるときもあれば、読解の授業やディスカッション、作文などの授業に当たるときもある。

指導教員は専任講師と呼ばれる常勤者が担っており、経験や初任者の在籍人数に応じて受け持つ人数が異なる。指導に当たっては、自分自身の教師としての経験など個々の研鑽をベースに行われている。しかし、最近は経験の浅い教員も指導教員として教案指導を行う事例も増えてきている。

2. インタビュー調査

2.1. 目的

教案指導における初任者と指導教員にとっての課題を抽出することを目的としたインタビュー調査を行った。

2.2. 対象者

対象者は筆者が所属する組織の日本語学校2校の初任日本語教師3名と教案指導経験者4名で、初任者のうち2名は半年間の教案指導を終了した者、1名は2019年4月から本校で教え始め、現在教案指導を受けている者である。指導教員の教案指導経験は1名が3年でこれまでに6名を指導した者、も

う1名が約1年で3名を指導した者、他の2名が半年で2名を指導した者と1名を指導した者である。

2. 3. 実施期間と方法

2019年6月3日から同年6月7日にかけて、それぞれの勤務校において1対1の対面による半構造化インタビューを行った。

2. 4. 結果

紙面の都合上、初任者へのインタビュー結果のみ、質問項目と回答の一部を表1に示す。

2. 5. 考察

文型導入のための例文作りや練習の方法など、初任者が授業で教える内容について難しさを感じていることと同時に、教案の書き方、目標の立て方、時間配分など、授業設計そのものにも難しさを感じていることが分かった。指導教員へのインタビュー結果については、教案の書き方そのものが求めているものと違う、授業全体の設計ができていない、学習目標と練習が合致していないなどの回答があり、初任者が難しいと感じていることと共通の課題を感じていることが分かった。一方で、教案に書かれていないことについては気が付かず、チェックが漏れていた、修正の指示やフィードバックの仕方に神経を使ったなど初任者とは異なる難しさを感じていることも分かった。

3. 今後の計画

今回の結果をもとに、初任者と指導教員の双方が利用できる、より効果的な授業実践を目指した教案作成を支援するためのチェックリストを開発する。初任者や経験の浅い指導教員が作成や指導の際のガイドとして用いることができ、経験のある指導者にとっても効率的に指導できるものにするために、インストラクショナルデザインの手法を用いる。まずは、教案作成と教案指導の課題についてさらに詳細な情報を得るために、今回のインタビュー結果を参考にアンケート調査の質問項目を作成する予定である。そして、その結果を分析し、チェックリストを作成した後、初任者と指導教員にある一定期間使用してもらって形成的評価を行い、チェックリストの改善を図りたい。

参考文献

文化庁文化審議会国語分科会、2018「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」

http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/_icsFiles/afieldfile/2018/06/19/a1401908_03.pdf (accessed 2019. 6. 12)

表1 初任者への質問項目とその回答（抜粋）

	初任者A	初任者B	初任者C
難しい点	<ul style="list-style-type: none"> ・細かく書きすぎる、何をどう削ればよいか分からなかった ・文型導入の状況設定や語彙、説明を考えるのに時間がかかった ・どう書いていけば効率よく書けるかが分からなかった。 ・練習がワンパターン ・学生の集中のさせ方 ・練習の組み立て方 	<ul style="list-style-type: none"> ・文型導入のための例文作成、状況設定 ・何をどう練習させればよいか ・練習の難易度の設定 ・時間が余るのが心配 ・目標を達成するために何をどうすればよいかと考えること ・学生が答えられたときに達成できたからなのか、簡単すぎたからなのかの判断がつかない 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識面でどこまで準備するのが適当かわからなかった ・何をどう教えるかばかりが気になり、授業の目標は後で書いていた ・時間配分や構成 ・必要な例文の数
ほしいサポートやツール	<ul style="list-style-type: none"> ・枠が設けてある教案のフォーマット ・Q&A集 ・練習例のサンプル ・他の人の教案例 ・一目で見やすい教案例 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考にできる教案例 ・目標の立て方のひな形(必要なことが盛り込めるように) ・授業設計の手順を示したもの 	<ul style="list-style-type: none"> ・点検する観点